

10 億を超える人々が極度の貧困状態(1 日 1 ドル未満、なお 2 ドル未満では 25 億人(2005 年人間開発報告書))の中で生活し、富裕国と貧困国との格差は拡大し続け、先進国内の貧富の差も拡大し続けている現状において、貧困は国際政治経済問題の大きな領域である。本講義では、概説、第三世界都市貧困の現状、貧困者の運動及びその可能性、貧困解消に取り組む住民・NGO・国家・国際機関の役割、時間があれば先進国内の貧困問題等について種々の事例を紹介しながら考察してみる。

【評価方法】出席及びレポートで評価する。なお、講義を 3 回より多く欠席したものは、理由の如何を問わず、レポートの提出資格を失うものとする。レポートは 2 種類(以下 A, B)提出する必要がある(提出時にホッチキス等でまとめておくこと)。A は各回の講義ごとに、その中で自分が学んだことを 300 字以上でまとめて、最後の授業日にまとめて提出する。B はレポート執筆要領による。

【テキスト】なし。参考文献についてはその都度紹介する。

【授業計画】(下記は主な項目予定であり、必ずしもこの順序で進めるとは限らない)

1. イントロダクション、貧困の定義
2. 第三世界の貧困問題概説
3. 貧困と貧富の格差、貧困の罨
4. アジアの都市貧困層の現状と開発政策における位置付け

<アジアの貧困者の厳しい現実>

5. 開発と都市貧困層(アジアの例)
6. 政府開発援助(ODA)による大規模プロジェクトと貧困層/居住権
7. 開発政策・貧困解消政策の方向性(住民、NGO、国家、国際機関の役割)

<アジアの都市スラムの人々の可能性> タイ、インド、パキスタン、カンボジア、インドネシア、フィリピン、韓国等の事例を中心に。

8. アジアの都市スラムの人々の可能性 I:土地・住居へのアクセス
9. アジアの都市スラムの人々の可能性 II:貧困者居住運動
10. アジアの都市スラムの人々の可能性 III:信用・市場へのアクセス
11. アジアの都市スラムの人々の可能性 IV:貧困者経験交流、エンパワーメント
12. アジアの都市スラムの人々の可能性 V:貧困者のスペースの拡大と People's Process
13. アジアの農村(またはラテンアメリカ)の貧困者自身の運動・歩み(People's Process)

海外の貧困問題には関心を持つが足元である国内の貧困問題には無関心な人が時々いる。これは何かの間違っている気がする。このクラスで国内の貧困問題は扱う余裕がない。国内の貧困問題については、この学期中に開催される野宿者問題連続講座をお勧めする(10/19,11/16,12/14,1/11の4回、いずれも木曜日午後5時より開催。チラシは別途配布予定)。→[ここ](#)